

「磁気切符の秘密 (6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

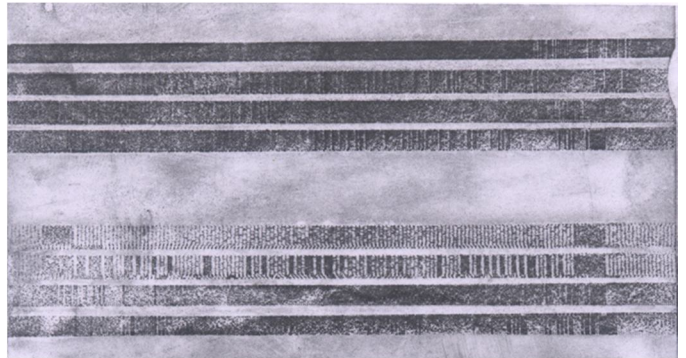
今は鉄道の乗車券もICカード(スイカやパスモ)が主流になった。私の場合、携帯電話の中にある「モバイル・スイカ」である。電車もコンビニも新幹線も、ロイヤルホストや宅急便の支払いまで、モバイル・スイカで済ませている。しかし、少し前までは、交通系のプリペイドカードがたくさんあった。地下鉄のメトロカードや、JRのオレンジカードなどである。名古屋地下鉄の「ユリカ」もその一つだ。私は数年前まで、よく名古屋に仕事で通ったので、愛用していた。



これが「ユリカ」である。今はもう廃止されていると思う。「ユリカ」の特徴は、残度数が少なくなった場合、度数の残っているカードや、現金で「積み増し」(チャージ)ができた点だ。今のスイカやパスモのシステムの先を行っていたと言える。



裏面には、乗車・下車・残高の記録が印字されて残っている。それと同時に、磁気情報も書き込まれていて、鉄粉を振ると、やはりバーコード状の筋が8本出現した。文字と重なっているのが面白い。



「ユリカ」の場合、自動改札を通すと、磁気情報の書き換えと同時に、裏面の文字情報も印字されるので、機械を通ってくるのに、少し時間がかかった気がする。上の画像を見る限り、磁気情報帯は8本あるが、上の4本は使われていないようだ。



最後に、量販店のポイントカードを試してみた。写真は「イケア」のポイントカードである。半透明で、北欧らしい斬新なデザインだ。その裏面にある黒い磁気帯にも鉄粉をまいてみた。



やはり磁気情報が書きこまれていて、バーコードのようになっている。このカードがICチップがないので、恐らくカード番号(顧客番号)だけがあらかじめ書き込まれていて、その後使用しても、情報の書き換えはないのだろう。

今回は、まず自分自身の面白い自由研究になった。いつか授業で使ってみたいと思っている。